# Institut français du Japon · Cours à distance

n°297

le 28 avril 2022

Printemps 2022 Envoi n°1

Bonjour à tous. 皆様こんにちは!

新しい学期が始まりました!このニュースレターでは、通信事務局からのお知らせのほかフランス語学習やフランスに関する様々な情報をご案内いたします。

今回は学期初めてのレターになりますので、通信講座の付属サービスを 中心にご案内します。また、前学期に受講された皆様には、アンケートに お答えいただきありがとうございました。貴重なご意見・ご要望にできる 限りお応えできるように努めて参ります。

では、今学期も楽しくフランス語を学習していきましょう!



#### ■ 通信講座の学習サポート

#### 1.会話サポート

会話サポートでは、スカイプで 10 分間、フランス人教師とマンツーマンでフランス語で会話することができます。フランス人の先生といきなり話すのは緊張するかもしれませんが、とにかくチャレンジすることで、フランス語の会話力をつけましょう!

#### おすすめの活用法

- ●中級〜上級の方:出身地や住んでいる街の紹介、趣味、好きな食べ物、レシピの説明、週末にしたこと、最近みた映画や読んだ本など身近なこと話して会話を楽しみましょう。

### 2.質問サポート

答案の添削・模範解答を熟読しても理解できない時は、下記の方法で質問できます。質問内容は受講コースの課題に関する質問に限ります。



#### ● 質問の仕方:

質問用紙またはメールの件名には「 受講コースコード-課題番号 お名前 受講生コード」を明記してください。例:3CGD1-03 NICHIFUTSU Hanako C11400

#### ● 質問の送り先

☑ メール: soutien@institutfrancais.jp 一番早く解答が返却されます!

☑ 郵便: 答案とは別の用紙(A4 など)に質問事項をまとめて答案と一緒に郵送。質問を答案

に直接記入したり、ポストイットに書かれた質問にはお答えできません。

☑ Fax: 03-5206-2861

#### ■ DELF・DALF: フランス語資格試験のお知らせ

DELF (Diplôme d'études en langue française) とDALF (Diplôme approfondi de langue française)は、フランス国民教育省認定の、国際基準・統一規格の外国語としてのフランス語資格試験です。DELF(A1・A2・B1・B2)、DALF(C1・C2) の6つのレベルがあります。合格すると一生有効なディプロム(証書)が発行されます。

詳しくは「日本フランス語試験管理センターHP」 ⇒ https://www.delfdalf.jp/

### ■ 実用フランス語技能検定試験(仏検)のお知らせ

仏検は、フランス語の実用を試す日本の検定試験です。春季試験のお申込みは5月18日まで受付中です。

◆1次試験(1~5級): 6月19日(日) ◆2次試験(1級・2級・準2級の1次合格者対象): 7月17日(日) 詳しくは「公益財団法人フランス語教育振興協会(APEF)HP」 ⇒ https://apefdapf.org

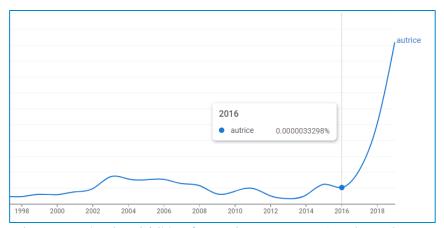
#### ■ 通信事務局のGW休業のお知らせ

通信事務局は、2022 年 4 月 29 日(金)~5 月 9 日(月)まで、お休みとなります。休業中に届いた郵便物は 5 月 <math>10 日に郵便局より配達されます。この期間のお問合せには、5 月 10 日以降、順次対応させていただきます。

## Histoires de mots le français d'aujourd'hui (1) autrice

La langue, et le vocabulaire en particulier, sont vivants, mobiles, changeants. Si vous observez la langue française depuis quelque temps, vous avez peut-être remarqué l'usage de plus en plus fréquent du mot *autrice* comme féminin d'*auteur*.

言語、特に語彙は生き物で、流動的で、変化します。フランス語を以前から注意深く見ていた方なら、auteur(著者)の女性形の autrice という言葉の使用が増えたことに気づいたかもしれません。



Occurrence du mot *autrice* dans l'édition francophone (source : Google Books Ngram Viewer)

Autrice n'est pas un mot nouveau. Il apparaît en français au 16<sup>e</sup> siècle, par emprunt du latin *auctrix* (féminin de *auctor*, « auteur »). Cependant, dès le 17<sup>e</sup> siècle, son usage est réprouvé par l'Académie française, cette police de la langue nouvellement instituée : pour les académiciens (tous des hommes bien sûr) le terme prestigieux d'auteur (comme celui d'écrivain), ne peut être mis au féminin ; on écrit alors : elle veut devenir auteur, ou une femme auteur.

Pour combler ce manque, le 19<sup>e</sup> siècle anglophile importe d'outre-manche *authoresse*, mais ni ce mot ni sa variante *auteuresse* ne connaissent de succès.

Au cours des années 1970, avec l'émergence des mouvements féministes, ce conservatisme devient intenable : la féminisation des noms de profession se systématise et devient une politique officielle en France à partir de 1997, sous le gouvernement Jospin. Mais c'est la forme *auteure* qui est alors préconisée et qui se répand dans les années 2000.

L'émergence d'autrice est très récente, son essor ne date que de 2016. Le mot a été longtemps considéré comme « malsonnant », par rapport à auteure, perçu comme plus « doux ». Pourtant, il correspond parfaitement à la morphologie du français : le mot actrice, phonétiquement très proche, ne choque pas ; mais ce mot est courant depuis le 17<sup>e</sup> siècle, car le métier de comédien, socialement méprisé à l'époque, semblait assez vil pour être au féminin ! On peut parier qu'autrice, en passe de s'imposer, semblera tout aussi naturel à nos oreilles d'ici quelques années.

autrice は新語ではありません。ラテン語の auctrix (auctor の女性形) からの借用語で、16 世紀のフランス語に出現しました。しかし、17 世紀になると、その使用は、アカデミー・フランセーズという新設された言語の警察によって非難されました。アカデミー会員(もちろんすべて男性)にとって、auteur という威厳のある言葉(écrivain のような)は女性形にすることはできません。そこで、こう書きました。elle veut devenir auteur(彼女は作家になりたい)とか une femme auteur(女性の作家)とか。

この穴埋めをするため、19世紀には、イギリス好きの人は、英国から authoresse を輸入しますが、この言葉もその変異形の auteuresse も成功を収めませんでした。
1970年代、フェミニズム女性解放運動により、このような保守主義は受入れられないものになりました。職業

名の女性形は組織化され、ジョスパン政権下 1997 年以降はフランスの公式政策になりました。しかし、推奨されたのは auteure という形で、2000 年代に普及します。 autrice の出現はごく最近であり、その飛躍は 2016 年になってからです。この言葉は、長いこと耳に「柔らかな」な音の auteure と比較して「耳障りな」音だと見なされさました。しかしながら、フランス語の語形的には完全に対応しています。actrice(女優)という言葉は、発音的にはとても近く特に驚きもありませんが、この言葉は17世紀から知られています。なぜなら、その時代、役者という職業は社会的に軽蔑され、女性形にするに下品な感じでした! autrice も、数年後には、それを強いられる過程で、私たちの耳にも自然に聞こえるようになることは間違いないでしょう。